

第 6 回援助効果意見交換会 別添資料

2011 年 11 月 15 日

(特活) 国際協力 NGO センター

以下の 4 点の質問については、第 6 回援助効果意見交換会では議論する時間がないと思われるので、書面で回答をいただきたい。

アンタイド

成果文書の第 3 ドラフトでは、アンタイドを達成する期限が検討事項となっている。この点について日本政府はどのような見解を持っているのか伺いたい。また、円借款ではプライマリーコントラクターはアンタイドになっていると理解しているが、無償では契約部分が日本企業であっても日本企業が発注する部分がアンタイドであれば、アンタイドに計上している。両者の基準が異なるのはなぜか伺いたい。

援助の予測性、共同ミッションおよび共同分析の改善

モニタリング・サーベイにおいて援助の予測性、共同ミッションおよび共同分析の数値が目標に達していない。予測可能性は受け取り国による効果的な開発計画の策定に不可欠である。また共同ミッションや共同分析は、ドナーによる受け取り国への能力強化とオーナーシップの強化を意味するものであり、日本政府の援助政策の根幹をなすものである。これらの達成度が低かった理由と、今後改善していくためにどのような方法を検討しているのか伺いたい。

新興ドナーと民間企業へのアプローチ

DAC 以外のドナー国あるいは民間企業等の開発に関わるアクターの動きをどのように既存の開発の枠組みと整合性をもたせるのか日本政府の戦略および具体的な取り組みに関する見解を伺いたい。

会議の開催のあり方

近年の国際会議同様、釜山ハイレベルフォーラムにおいても CSO が情報発信するための十分な活動スペースが確保される必要がある。日本政府にもこの点を理解し、支援していただきたい。また、会議開催中に日本政府と CSO の間で会合の機会を複数回設けていただきたい。

以上